

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第657号 平成25年12月10日

## 公表反対は誰の為（1）

11月29日、文部科学省は、全国の中学3年生と小学6年生の全国学力テストについて、来年度から学校別の結果を教育委員会の判断で公表する事を認めると発表しました（11月29日付北海道新聞他）。

文部科学省ではこれ迄、市町村別の結果や学校別の調査結果の公表を禁止して来ました。この為、調査結果の公表に関して事前にアンケート調査を行ったところ、都道府県の知事の多くは公表に前向きだったものの、市町村長や市町村教育委員会、学校は圧倒的に反対が多かったそうです。

下村文部科学大臣は、今回の方針を示すに当たり「公表する場合は、競争をあおる形でなく、学校の励みになるような方法を工夫してほしい（11月29日付北海道新聞）」と述べたものの、早速、一部の市町村教育委員会や学校等から調査結果の公表に関して懸念する声が出されています。

そうした反応は文部科学省も当然想定していたと思いますが、それにもかかわらず今回方針を転換したというのは、調査結果を積極的に今後の教育活動に活かして欲しいという強い意思の表明と受け止めるべきでしょう。

文部科学省では、調査結果の公表に関し、

- 単に平均正答率のみの公表はせず、分析結果を併せて公表する
- 公表する場合、学校と内容や方法を事前に十分相談し、学校の順位付けはしない事
- 児童生徒の個人情報保護等、必要な配慮をする事

といった幾つかの配慮事項を示しています（平成26年全国学力・学習状況調査に関する実施要領から）。

文部科学省はこれ迄、調査結果の公表によって地域間、学校間の序列化が進み、過度の競争が行われる事を避けるという観点から、市町村や学校ごとに調査結果を公表する事には慎重でしたが、各学校がそれぞれ保護者や地域に調査結果を公表する事迄は規制していませんでした。

しかし、残念ながらというより、むしろ当然の様に、殆どの学校は保護者に対して積極的に説明責任を果たそうとはして来なかった様に思います。

学校関係者と話をしていると、しばしば子ども達の学力向上について「保護者の

理解と協力がなかなか得られない」と嘆く声が聞こえて来ます。しかし私としては、そう嘆く前に、例えば、調査結果について保護者に対して十分情報公開し、説明しているか反省する必要があるのではないかと考えています。必要な情報も与えず協力だけしろといっても、それでは思う通りにならなくても仕方ありません。

静岡県の知事が、ワースト100の校長名を公表する発言して物議を醸した事は記憶に新しいところです。勿論私は、静岡県知事のような発想は、子ども達の学力問題の解決にはプラスにならないと考えています。しかし同時に、静岡県知事の発言は学校側の姿勢に対するいらだちの表れであろうとも思っており、その事に共感する人は少なくない様に感じています。

さて、学力調査の結果を学校別に公表する事に対しては、学校や教師の中に反対の声が強いのですが、それは何故なのでしょう。

報道等で示されている声を纏めて見ると、概ね

「学校間の順位付けや序列化が進む」

「子ども達が傷付く、劣等感を持つ」

という2つに集約できる様に思います。〈続く〉（塾頭：吉田 洋一）